



# 自然観察

No.142

2024.3月

## 目次

- ウォッチングレポート ..... 2
- 2024年総会及び講演会のご案内 ..... 8
- 初ブースに参加 ～アクティブシニアフォーラム～ ..... 8
- さあー 身近な自然観察をしましょう ② ..... 9
- 2024年総会議案 2023年度事業報告 ..... 10
- 同 2024年度事業計画(案) ..... 11
- 編集後記・連絡先 ..... 14



「川明け」

# ウォッチングレポート

国際海岸クリーンアップ観察会 2023/10/1

石狩市 安田 秀司、札幌市 鈴木 ユカリ

集合場所は海岸から1キロ離れた、防災広場という芝生が広がる公園。ここから石狩海岸の重要な自然要素であるカシワ天然海岸林の林縁を観察しつつ砂浜へ向かう。カシワ・ミズナラ・イタヤカエデや草本類を観察。海辺に出ると広大な砂浜が見えるが、貴重な植生である海岸草原が果て無く続く。そこには海浜植物の原生群落が溢れている。

さて、本題の海岸クリーンアップ活動は、スタッフが砂浜に事前に区割りを設定。一人当たり幅1.5m、長さ30mの面積のゴミ拾い。意外と少ないゴミなので、5分ほどで大方全員がゴミ拾い出来た。

そこに予想外の激しい雨。スタッフの車に避難して様子を見るが、重要な細かい分別とそのゴミの数のカウント作業の為に、弁天歴史公園の屋根のある休憩施設に許可を得て移動。そこは屋根もベンチもテーブルもあるので、非常に便利な場所だった。国際基準の分別は、実に45種類。それが記されたカードの場所に拾ったゴミを全員で選別して、さらにその数をみんなでカウントしていく。拾ったゴミはずいぶん少なく感じたが、この分別・カウント作業を考えると、時間的にちょうどよい位だった。今回のスタッフ含め10名ほどの活動は、意思疎通もしやすく、全員で考え、全員で作業ができた一体感があり、大変良かった。

拾ったゴミは圧倒的にプラスチック系が多く、放っておくとこれらはやがて劣化分裂してマイクロプラスチックとなる。改めて海岸のゴミの問題の深さを認識した。

今回の観察会は「北海道e-水プロジェクト」の支援を受けて実施したことを報告します。





### 秋の錦大沼観察会 2023/10/8

苫小牧市 白崎 均

苫小牧でも猛暑が続きました。

その後すぐ冷える秋が来た今日です。その影響でしょうかドングリやクリ等、木の実が実っていません。今年では日本中でクマなど野生動物が民家や市街地に出没して、人や畑などが被害にあっています。当地方でもエゾシカの出没が年々増しています。今のところ重大な事になっていませんが、油断すると大変な事になる気がします。

動物や植物、鳥類、昆虫など守っていかなければなりません、その対応方法がどうすれば良いのか明確な方法が分かりません。大きくて小さい問題です。小さくて、大きな問題でしょうか。

### 旭川市「サケの遡上」観察会 2023/10/14

旭川市 原部 剛

1時～3時。解説(講師)は1昨年と同じ、山田直佳(日本釣魚振興会)さん。前回は指導員対象だったが、今回は一般対象で、事前のサケの遡上に関する講話等を行わず、始めからサケの遡上場所で観察会。場所は、前回の場所と違い、旭川のツインハーブ橋の下流2ヶ所であった。長年サケの遡上調査をされている山田さんなのでサケの遡上場所を知っておられ、私たちが突然行っても、遡上場所はわからないと思う。

サケの遡上が見られ場所は、川の本流でなく、そのそば、岸に近い場所であった。産卵のための穴等、教えていただき。偏光サングラスを貸していただき、泳いでいたサケが見られた。産卵を終えたサケの死骸が何匹もあった。

一般の申込みあった方は3名だったが、事前のこの観察会の案内(新聞等)を見て、残り4名は当日参加の方、うち3名は親子。サケの遡上の観察会、事前の案内の方法によっては、もっと参加者が増えると思う。

### 屯田防風林の秋の紅葉と木の実観察会 2023/10/14

札幌市 村元 健治

秋晴れの絶好の観察日になり、参加者も「さっぽろ10区」に掲載されたことなどもあって、指導員含めて20人も達しました。

初めに観察会のリーダーの沢田指導員より、実りの秋にふさわしい木々類の種とその散布の仕方並びに屯田防風林の歴史などについてそれぞれ説明がありました。

続いて「美しい日本の歩きたくなる道」500選の一つで、かつ市内でも唯一の指定にもなっている屯田防風林の中の観察に移りました。

人数が多いため2班に分けて説明が行われました。入口の所に赤く色づき始めたウルシ(木漆)があり、紅葉の美しさにつられて触るとかぶれることがあることが伝えられました。

探索路の足元に多数見られたツルマサキの所では、この木が他の木に絡みつくツル性の植物で、冬でも常緑であることが紹介されると改めて驚かれる方もおりました。またこれらツタ類の木々では、気根を出して他の木々に絡んで生育するゴトウツル(ツルアジサイ)、イワガラミなどの例も合わせて紹介されました。

続いて散歩道沿いにあったキタコブシの木の前では、若い木の葉と小枝を採取して、その香しい香りを参加者、一同で嗅いで確認しあいました。

防風林の中でもメイン樹種になっているヤチダモが群生する所では、山田大邦氏から、この時期にトドマツからヤチダモに生殖のために移動する雪虫の興味深い生態などが紹介されました。

好天にも恵まれ、かつてないほどの参加者数となり、主催した自然観察協議会としても手応えがあったとして来期以降も継続開催していくことを確認して散会しました。

### 秋の錦大沼観察会 2023/10/15

苫小牧市 白崎 均

苫小牧でも猛暑が続きました。

その後すぐ冷える秋が来た今日です。その影響でしょうかドングリやクリ等、木の実が実っていません。今年は日本中でクマなど野生動物が民家や市街地に出没して、人や畑などが被害にあっています。当地方でもエゾシカの出没が年々増えています。今のところ重大な事になっていませんが、油断すると大変な事になる気がします。

動物や植物、鳥類、昆虫など守っていかなければなりません、その対応方法がどうすれば良いのか明確な方法が分かりません。大きくて小さい問題です。

小さくて、大きな問題でしょうか。

## 旭山公園観察会 2023/10/15

旭川市 原部 剛

下見は1週間前で、その日は紅葉はまだだったが、この日の紅葉は進んでいて、きれいだった。色は黄色が多く、赤が少なく、赤い葉を見つけて写真を写す。イボタンやレイヨウボタンの黒い実、ツルマサキやツルリンドウの赤い実を見る。この時期に咲いている花はあまりないが、ミヤマアキノキリンソウの花があり、目を引いた。ハシブトガラが近くに寄ってきて可愛い姿が見られた。餌付けをしているらしい。

落ちているドングリの実は少なかった。今年は、日本各地で熊の出没が多く、落ちていたドングリの実が少ないと報道されていた。旭山公園でも今年出没があったが、その後、公園への出入り閉鎖は解除となっていた。案内で、鈴等持参を呼びかけた。5月の観察会は、雨で中止になったが、この日の天気は晴れ、さわやかな天気、気持ち良かった。

なお、旭川の観察会、今年の秋で満16年になるが、中止になったのは初めての事だった。

## 長橋なえぼ公園観察会 2023/10/15

小樽市 松井 典彦

雲一つない快晴の中、私が指導員デビューの観察会、秋のどんぐりや栗の実、冬芽、北海道の冬を越える虫の不思議な生態など楽しく観察できればと思いました。

小樽では自生していないケヤキやブナやチョウセンゴヨウなど樹木が大きく育っています。昨年はブナの大豊作の年で、たくさんの種が芽を出しているところを観察する事ができました。果たしてこの後どんな成長をするのか楽しみです。

タラノキの冬芽は小さな三角の冬芽がついていました。ここのエリアはタラの芽採取は禁止。まっすぐに3メートルほどに伸びて誇らしげ。カツラの黄色く色づいた葉の甘い香りの中、フユノハナワラビの胞子、オオウバユリの実の種、ノビネチドリ、サルメンエビネやサイハイランの越冬葉、ツチアケビの赤い実等を見ながら落ち葉を踏みしめての観察会でした。

コースの途中の2本のヤチダモの大木には、残念ながらまだトドノネオオワタムシは見ることができませんでしたが、最後に森の自然館のそばのケヤキでは、ケヤキヒトスジワタムシの第4世代がケヤキに群がっているところを見ることができました。前日にはまだ少なかったワタムシが一日たつと樹皮の隙間にびっしりと潜り込んでいる様子や、ケヤキの落ち葉についた虫こぶも見ることができました。

日下部さん提案の新しいコースを試してみましたが、例年よりも参加者の皆さんもとても喜んでいただけたと思います。今年も事故無く1年を締めくくることができました。



雪虫の説明



ホオの実



ブナの木



ツチアケビ

晩秋のウトナイ湖観察会 2023/10/22

苫小牧市 谷口 勇五郎

晴れ時々曇り、10℃前後で風も少しあり、少し寒い日でした。

鳥は湖のはるか向こう岸にハクチョウが20羽ぐらいの群れと、ガンが数羽いる程度でした殆どが南下したのでしょうか。湖の中央付近にいます。

草花はこの時期になるとオオアワダチソウは終わり、ユウゼンギクやネバリノギクが咲いているぐらいです。4日前の下見の時にはエゾエンマコオロギの声がありましたが、今は聞こえません。イタヤカエデ、ヤマモミジ、コナラ、ツタなどが色づき始めていました。

カラマツ、ハンノキ、ミズキ、シラカンバ、ヤチダモ、キハダ、エゾニワトコや、ズミ、ツルウメモドキ、ケヤマウコギ、ノブドウなどの果実も取り扱いました。

北大研究林観察会 2024/1/14

苫小牧市 谷口 勇五郎

前日、少し雪が降り、リス・キツネ・シカの新しい足跡がありました。キツネやネコは前足の跡を正確に後足が踏む、イヌやタヌキは少しずれる、などの足跡の特徴を説明しました。冬芽の作りの説明後、現

地の樹木が大きいので、目先にはなく、他所から採取したホオノキ・ヤチダモ・ハルニレ・ハンノキ・オニグルミ・ミズナラ・エゾヤマザクラなどを見せました。イチョウ・チョウセンゴミシ・リギダマツ・ヨーロッパトウヒ・メタセコイア・トドマツ・アカエゾマツなどの紹介をしました。

方々にチョウセンゴヨウの実生があるのでエゾリスの貯食活動にも触れました。  
ヤマガラ・シジュウカラ・シマエナガなどもおりました。

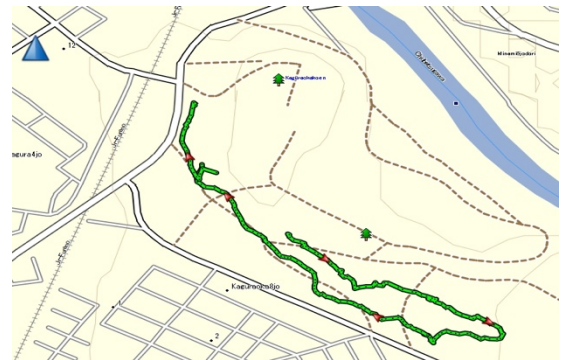
## 神楽岡公園観察会 2024/2/17

旭川市 柳田和美

【概況】定刻15分前に全員揃ったので、早めに開始することができました。緑のセンターに移動してスノーシュー装着後出発。帰り際にスノーシューが外れた参加者が二人いらっしゃったが、薄手の長靴よりもスノーブーツやしっかりした防寒長靴が良かったようでした。

下記のGPSトラックは電池切れで一部消失。推定歩行距離2.6km。

【標準木】観察会開始直後に標準木の歴史に関する解説が指導員の松田さんよりありました。曰く、エゾヤマザクラの標準木(たぶん2代目)がここ神楽岡公園にあったことや(この地に多いイタヤカエデではなく)ヤマモミジの紅葉の標準木があることなど、あまり知られていない歴史に皆さんの興味も高まったように見えました。ちなみに紅葉の標準とは葉っぱ全体のうち、80%以上が紅葉した時ということも、初めて知ることでした。



【餌付けとその功罪】普段から、餌付けをする方がいる神楽岡公園での開催。案の定、針葉樹見本林に入って説明を始めて間もなく、エゾリスが至近距離に、それも2頭。さらにゴジュウカラ、シジュウカラ、ハシブトガラなども「寄って来る」「寄って来る」！ヒマワリの種の残骸、餌付け場所付近でのエゾリスの多くの足跡などもしかり。観察できるのはとても気持ちがいいし、うれしいのですが、何とも胸にモヤモヤの残る場面の連続です。

【観察鳥種・樹種】アズキナシ・ミズナラ・シラカンバ・ウダイカンバ・ハリギリ他。

カケス・アカゲラ(大きなドラミングを初認)、コゲラ・ヒヨドリ・ハシブトガラ・ゴジュウカラ・シジュウカラ・ヤマガラ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・ヒガラの11種。



## 2024 年度総会及び講演会のご案内

会員の皆様、標記総会及び講演会について、下記のとおり開催いたしますのでお知らせします。お忙しい中とは思いますが、参加をお願いいたします。

日時 2024 年 4 月 6 日 (土)  
場所 札幌市中央区北 8 条西 3 丁目  
札幌エルプラザ 2 階 環境研修室 1  
総会 13:00～14:20 (受付 12:30～)  
講演会 14:30～16:00 (受付 14:20～)  
演題「北海道ボールパーク F ビレッジと自然保護」  
講師 三澤英一 北広島の自然を考える会 代表  
北海道自然観察協議会 理事

### 初ブースに参加 ～アクティブシニアフォーラム～

去る 2 月 1 日 (土) に札幌市北区にある札幌エルプラザホールにおいてアクティブシニアの人達の活動の在り方について実践者を交えて語り合う北海道主催のフォーラムが開催されました。その際、同時にシニアの人々が様々な分野で活動する取り組みをブースにおいて紹介する「ふらっとボランティアフェスタ」も開かれ、北海道自然観察協議会も初めではありましたが参画しました。

ブースでは子供の頃、遊んだことがあった絵にシールを貼るコーナーが設けられて、懐かしそうに貼ってゆく参加者がみられました。また会の活動を紹介する展示コーナーにも見学者が訪れていました。北大構内観察会に参加された方々も見学を訪れ、次回以降も参加されると約束されました。残すところあと僅かになった今年度の観察会予定表も 15 人ほどの参加者の方々に配布することが出来ました。

なお、当日は悪天候にもかかわらず多くの方々が参加されて、認定 NPO 法人シーズネット・脳活塾塾長の柿沼秀樹氏による「元気で暮らすヒント」と題した講演も行われて楽しく納得しながら聴くことが出来ました。またその後行われた福祉施設を運営する方々が参加した 4 人のパネリストによるパネルディスカッションも大変、勉強になりました。



(鈴木ユカリ、原島和子)



## さあー 身近な自然観察をしましょう！ ③

### 家の中でもできる自然観察！？

様似町 学芸員 水永 優紀

私は、アポイ岳ジオパークでもある北海道様似町で植物の学芸員として働いています。私が4月から10月までの間勤務しているアポイ岳ジオパークビジターセンターは、アポイ岳の麓にあります。自然が豊かなので、自然観察会のネタに事欠かないのですが、ビジターセンターの事務所内にも、アブやハエ、クモ、カメムシなど、様々な虫が勝手に入ってきます。今回は、どこでもできる(?)自然観察のネタを一つ紹介したいと思います。

みなさんは、ハエの顔をじっくりと観察したことはあるでしょうか？私は、大学院で訪花昆虫の研究をするまで、じっくり見たことはありませんでした。よく家の中に入ってくるハエは、イエバエやクロバエの仲間が多いのですが、これらのハエは顔を見るだけでオスとメスを区別することができます。オスは目と目の間隔が狭く、メスは目と目の間隔が広がっています(図1)。自然観察会でこのネタを披露すると、大人も子どもも真剣にハエを探し始めます。家の中に入ってくるハエ以外にも、アブにもこの見分け方を適用できます。アブをこの視点で観察すると、人に寄ってくるアブは全てメスであることが分かります。アブのオスも野外で見ることができますが、人に全く執着しないので意識して探さないと見つけれないかもしれません。

私はハエ(双翅目昆虫)が好きなのですが、その中でもいつか実際に見てみたい種類があります。それはトラツリアブです(気になる方はインターネット等で調べてみてください)。メスはとても可愛らしく、ハエ界のシマエナガなのではないかと個人的に思っています。ちなみにトラツリアブは北海道には生息していませんが、同じツリアブ科のビロードツリアブは生息しています。トラツリアブよりも渋い色合いですが、こちらもフワフワで可愛らしいです。ビロードツリアブは、春にエゾエンゴサク等に訪花しているのを見かけることがあります。みなさんも来年は“ハエ”に注目してみてはいかがでしょうか。



ヤマトアブ(オス)



ヤマトアブ(メス)

図1 ハエ

オスの顔



メスの顔



会員の皆様からの本連載へのご投稿をお待ちしております 編集部

## 2024 年度総会議案

### 1 号議案

### 2023 年度事業報告

#### 1 観察部所管事項

##### (1) 観察会について

2023 年度の一般観察会は、36 開催が予定され、2 開催の中止を除き現在（2/29）まで 33 開催が無事終了した。集計、概要は下記の通り。

一般参加者数延べ 444 人、指導員参加者数延べ 95 人。一般参加者の年代別では、年代記載者 425 人中、80 代 17 人、70 代以上 233 人、60 代が 97 人、50 代 43 人、40 代以下 35 人となっている。

最終結果は 6 月発行予定の会報に掲載する。なお、各観察会の実施状況は会報・ホームページに掲載中である。

##### (2) 会計について

例年通り良好に観察会参加費は入金されている。詳細は事務局会計報告を参照のこと。

##### (3) 傷害保険について

今年度観察会において、事故及び怪我の報告はなく、保険の適用は無かった。

#### 2 研修部所管事項

今年度の研修会は、開催されませんでした。

#### 3 編集部所管事項

##### (1) 会報発行について

2022 年度発行の会報「自然観察」は、140 号（6/15）、141 号（10/15）、142 号（3/15）計 3 回。また、全国 21 か所の自然観察指導員連絡会及び関係団体へ会報を送付し、交流を行っている。

今年度、会報印刷は市民活動促進センターの印刷機を借りて行ったことで、会報印刷費を大幅に削減できた。

(2) ホームページ (HP) の運営について

HP のアドレスは <http://www.noc-hokkaido.org/>

#### 4 事務局所管事項

(1) 事務局

① 各種会議等の円滑な運営

i 理事会について

2023/6/3 (土)、2024/2/4 (日)、4/8 (予定) の3回開催された。

ii 総会について (会報 No. 140 号に会計決算・予算及び議事録を掲載済み)

② 入退会者の受付と会員名簿の整理

2024/1/31 日現在 会員数 180 名

③ 他団体との連携・協力について

i 高山植物ネットワーク

環境道民会議

ii 講師派遣依頼 今年度は無し

(2) 総務

① 懇親会は、昨年に引き続きコロナ禍のため中止とした。

② 編集部の依頼により会報の宛名ラベルの作成に協力した。(会計)

(3) 広報

① 「観察会の予定表」の配架と情報提供

・配架場所 各地区の自然センターなどに設置。また、観察会で参加者に配布した。

・情報提供 自然ウォッチングセンターのホームページへ掲載された。(観察部)

② 2024/2/1 NPO 法人 「北海道 NPO サポートセンター」主催の「アクティブシニアフォーラム」に参加した

(4) 会計→2号議案にて報告 別紙

昨年度3年間未納者については退会扱いとし、今年度で3年間未納者は10人の予定で年度末までに会費の納入が無い場合は退会扱いとします。

## 第3号議案

## 2024年度事業計画(案)

### 1 観察部所管事項

(1) 観察会について

今年度の観察会実施計画は別表の「2024年度自然観察会の予定表」の通りであり、○開催が予定されている。今回掲載以外にも企画があれば、できる限りバックアップするので観察部(山形)へ連絡をお願いします。各観察会連絡担当者の方は、一般参加者名簿、指導員用名簿及び観察会予定表など、

必要枚数を観察部山形までご連絡のこと。尚、各観察会で行う下見は、会員同士の交流と研修の場ともなるので有効に活用していただきたい。

## (2) 観察会参加費について

観察会参加費については、現行良識の範囲で、各観察会ごとに決定して良い事としている。

各地域ごとに活動財源とする事も妨げるものではない。資料作成などで赤字となることの無いよう参加者数の予想など、これまでの経験を活用し適切な金額としていただくよう希望する。

保険料としての協議会への納入は、最低でも一人 50 円以上としていただきたい。

参加費は観察会予定表、参加費欄に記載される。観察会予定提出の際には参加費の記載をお願いする。記載のない場合は 200 円として記載する。

## (3) 実施報告・会計について

①観察会の報告書は観察部（山形）へ送付のこと。また、観察会の活動写真を数枚程度必ず送るようお願いする。写真に参加者が含まれる場合は事前に承認を得るようにお願いする。寄せられた報告書・写真は会報またはホームページに掲載されることがあるので了承されたい。併せて、会主催の総会、道庁・植物園観察会、各研修会の報告と写真の提出も宜しく願います。尚、観察部会計は、会計処理の円滑化を図るため事務局会計に移行することとする。

②保険料などを現金で振り込む場合は観察部会計へ直接送付のこと。

ゆうちょの振替口座への振り込みを利用する方は、会計へ申し出でること。印字済みの振込用紙（振込取扱票）をお渡しする。

※ゆうちょ振替口座番号：2770-9-34461 加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

参加者名簿と一人当たり 50 円の保険料を協議会へ送付のこと。但し、1泊2日以降は該当しない。

## (4) 傷害保険について

観察会参加者の名簿が基本的となる。名簿の記入後から保険の対象となり、帰宅まで（帰宅経路を大幅に外れない範囲で）有効である。また、指導員の車に乗せて、観察場所を廻る場合でも集合時に名簿の記載があり観察会の参加者であることが分かれば保険の対象となる。

事故が起きた場合は、速やかに適切な処理を行った後に、下記の保険代理店の担当者に連絡し、事務局へ連絡をお願いする。

保険会社代理店：ケイティエス 本間 茂 電話 011-873-2655 日曜、祝日休業  
普通傷害保険（エース損害保険株式会社）死亡保険：600万円、入院保険金額：5,000円（180日以内）日額通院保険金額：2,500円（90日以内）

## 2 研修部所管事項

(1) 全道研修会（研修部が企画し現地の指導員と連携しながら運営する研修会）

当面、中止とする。

(2) フォローアップ研修会（研修部が企画し指導員の力量向上を図る実践的研修会）

現在開催されている観察会の下見日などを有効活用し、研修会を行うなど検討する。

## 3 編集部所管事項

(1) 会報発行について

会報「自然観察」は 143 号（6/15）、144 号（10/15）、145 号（3/15）、年 3 回発行予定。

尚、今年度より会報編集作業は、小樽の松井理事にお願いする。

(2) ホームページの運営について

依頼された内容は速やかにアップし、会員へホットな情報を届けるように心がける。

尚、今年度よりホームページ担当は帯広の中村理事にお願いする。

## 5 事務局所管事項

(1) 事務局

① 各種会議等の円滑な運営

i 理事会について

必要に応じて の年 4 回程度開催予定。

ii 総会について (省略)

iii 講演会について (総会後に同会場にて開催)

② 入退会者の受付と会員名簿の整理は会計と連携をしつつ進める。

③ 他団体との連携・協力について (昨年に引き続き、連携を図る)

- ・北海道/環境財団(北海道地球温暖化防止活動推進センター)
- ・北海道/環境道民会議(北海道環境生活部環境政策課環境企画グループ)
- ・札幌市/環境局(北海道環境生活部環境局)
- ・高山植物保護ネットワーク(さっぽろ自然調査館内)
- ・全国の自然観察指導員連絡会・関係団体への会報送付

④ 事務局業務のスリム化への取組推進

今後の会の継続のために、事務局サイドの業務を整理・分担して、できる限り負担を少なくする工夫をし、事務局(役員)のなり手が就任しやすい環境づくりに向けて、提案・実行して行く。

(2) 総務・広報

観察会予定表の設置や自然ウォッチングセンターの掲載などは担当者と連携して活動を進める。

(3) 個人情報について

本協議会では、個人情報保護法の対象団体ではないが、保護法の趣旨に基づき、入手した個人情報は、観察活動の目的以外には利用しない。また、保有する個人データは適正に取扱い、第三者に提供することはない。会員各位は、個人情報の取り扱いには留意し、特に会員名簿は外部に流失しないようお願いする。

(4) 講師派遣依頼について

団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていく。

(5) 分野別ガイド・備品

① 得意分野で、会員からの疑問や地域情報の問い合わせに対応していただける方々。

分野	名前	電話	住所
水生昆虫、魚類	札幌市さけ科学館	011-582-7555	〒005-0017 札幌市南区真駒内公園 2-1
昆虫(甲虫)	堀 繁久	011-571-2146	〒005-0832 札幌市南区北の沢 2 丁目 20-18
植物全般	与那覇モトコ	0133-74-7952	〒061-3211 石狩市花川北 1 条 2 丁目 148

②備品の管理状況

備品	数量	保管先
実体顕微鏡ニコンファーブルミニ	2台	横山武彦（江別市）☎011-387-4960
水生動物採集用具		三澤英一（北広島市）☎011-372-0745
大型旗(120×180)	1枚	鈴木ユカリ（札幌市）
ポール（折りたたみ式）	3本	同上
小旗	3セット	同上

(6) 会計→第4号議案にて提案 別紙

(5) その他

- ・新会員入会制度の実施に伴う会則の変更について 別紙
- ・2024年度からの運営体制について

（編集後記）

2024年は元日早々、能登半島地震が発生し多くの方々が被災、ご不幸に見舞われました。お亡くなりになった方々のご遺族には改めてお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様には1日も早い復旧、復興をお祈りするばかりです。

最近、地震や津波に限らず、異常気象や火山噴火等自然災害や温暖化の影響に関する報道に接する機会が多くなっていると感じています。自然の脅威や変化、その対応や道外を含めた広域にわたる状況など、幅広く自然を理解したいと考え始めました。（田守）



自然観察 2024年3月15日/第142号 年3回発行  
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)

発行 北海道自然観察協議会  
編集 北海道自然観察協議会編集部